

(別記)

令和3年度平取町農業協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米の面積の割合が約23%で、転作作物に占める飼料作物が多く、主に町内の畜産農家に供給されている。また、振興品目であるトマトの面積も増加しており、転作田の有効的活用による水田農業の振興と経営安定化の基幹作物として重要な位置を占めている。

しかし、農家の高齢化が進み、農家戸数の減少が見られる中で、水田面積の維持が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は降雪量も少なく、夏は道内でも比較的温暖な地域で日照時間も長く施設野菜が適している地域となっている。施設野菜のなかでも振興品目となっているトマトの生産が向いており、国内トップクラスの生産量を誇る「びらとりトマト」の産地となっている。しかし、高齢化や後継者・労働力の不足、優良農地の維持が喫緊の課題となっており、労働力不足に関しては、地理的問題、労働環境や賃金条件などから雇用労働者を確保することが難しい状況となっている。

このことから、先進技術の導入など新たな栽培技術体系に取組み、現状の栽培管理作業の労働負担を軽減し収量の増加に取組むことや、担い手への農地集積、新規就農者の受け入れを推進することで産地の維持・発展を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は高齢化や後継者不足、機械の老朽化等により、近年水稻の作付面積が減少し畑作物への転換が進んでいる。当該地域は主食用米の産地でもあり、また水稻（水張）面積の減少は、保水能力低下などによる水不足により周辺の畑作物へも影響があるため水稻（水張）面積の維持を図ることが必要となる。

また、当該地域の多くは中山間地となっており、まとまった圃場が少ないことや、転作を行っている農地と主食用米を作付けしている農地が混在している状況となっている。

水田の利用状況については、営農計画書による近年の作付体系の把握や現地確認による農地の現状確認、又はアンケート調査による水田の活用見込を把握することで、畑地化支援による助成を活用し基盤整備や機械の導入を行うほか、担い手への農地集積を推進し、地域にあった水田の有効活用を検討する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

良質・良食味米品種の作付維持や高品質米出荷率80%以上を目指し、作業の共同組織化や省力化を図りながら、「売れる米づくり」を目指す。

(2) 備蓄用米

取組予定なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、産地交付金を活用し、農業者が蓄積してきた栽培技術や既存農業機械を活用できる飼料用米の生産拡大を図る。

イ 米粉用米

取組予定なし

ウ 新市場開拓用米

取組予定なし

エ WCS用稲

取組予定なし

オ 加工用米

主食用米の需要減が見込まれる中、産地交付金を活用し、農業者が蓄積してきた栽培技術や既存農業機械を活用できる加工用米の生産拡大を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

牧草の新植助成、更新助成を継続し、面積を拡大しながら良質な牧草を維持し、生産性の向上を図る。

また、麦・大豆は地域振興作物として作付の推進を図る。

(5) そば、なたね

取組予定なし

(6) 高収益作物

トマトについては、「びらとりトマト」のブランドを確立していくため、今後も重点振興作物として作付推進を図る。

また、トマトハウスを有効活用し、トマトの裏作でのキュウリ及び寒締めほうれん草の作付推進を図る。

その他の野菜についても地域の振興作物として、作付面積の維持を図る。

(7) 小豆

地域振興作物のひとつとして、継続して助成していきながら現状の作付面積の維持を図る。

(8) 利用権設定加算対象作物

担い手農家の規模拡大、農地集積の推進を図る。

(9) 不作付地の解消

現行の不作付地については、主に育苗ハウス等として活用している。今後不作付地を出さないよう作付推進を図る。

(10) 耕畜連携

耕種農家と畜産農家が連携することにより、安定した経営の維持を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

| 作物等 | 前年度作付面積等 (ha) | 当年度の作付予定面積等 (ha) | 令和5年度の作付目標面積等 (ha) |
|------------|------------------|---------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 465.40 | 436.50 | 440.5 |
| 備蓄米 | | | |
| 飼料用米 | | 18.9 | 4.5 |
| 米粉用米 | | | |
| 新市場開拓用米 | | | |
| WCS用稲 | | | |
| 加工用米 | 12.47 | 13.50 | 14.8 |
| 麦 | | | 0.5 |
| 大豆 | 0.72 | | 0.5 |
| 飼料作物 | 1205.97 | 1215.97 | 1235.97 |
| ・子実用とうもろこし | | | |
| そば | | | |
| なたね | | | |

| | | | |
|------------|-------|-------|-------|
| 高収益作物 | 82.92 | 87.52 | 88.15 |
| ・野菜 | 82.62 | 87.22 | 87.85 |
| ・花き・花木 | 0.30 | 0.30 | 0.30 |
| ・果樹 | | | |
| ・その他の高収益作物 | | | |
| その他 | 0.12 | 0.1 | 0.15 |
| ・小豆 | 0.12 | 0.1 | 0.15 |
| 畑地化 | 0 | 0 | 0 |

6 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理番号 | 対象作物 | 用途名 | 目標 | 前年度（実績） | 目標値 |
|------|-----------------------------|--------------------------|----------------------------------|--|---|
| | | | | | |
| 1 | 野菜・花き・小豆 | 野菜・花き作付助成 | 作付面積 | (令和2年度) 83.04ha | (令和5年度) 88.3ha |
| 2 | 戦略作物 その他作物 | 利用権設定加算 | 利用権設定面積 作付面積 戦略作物 その他作物 | (令和2年度) 0.15ha 1,206.69ha 83.04ha | (令和5年度) 25.0ha 1,235.97ha 88.30ha |
| 3 | 飼料作物 | 生産性向上対策加算 (新植助成) | 新植面積 作付面積 | (令和2年度) 10.30ha 1,205.97ha | (令和5年度) 10.0ha 1,235.97ha |
| 4 | 飼料作物 | 生産性向上対策加算 (更新助成) | 更新実施面積 作付面積 | (令和2年度) 29.93ha 1,205.97ha | (令和5年度) 50.0ha 1,235.97ha |
| 5 | 飼料作物 | 飼料作物団地化加算 | 団地化面積 団地化率 作付面積 | (令和2年度) 972.67ha 80.7% 1,205.97ha | (令和5年度) 1019.67ha 82.5% 1,235.97ha |
| 6 | きゅうり 寒締めほうれん草 | トマトにおける裏作物 の推進助成（二毛作） | 作付面積 | (令和2年度) 7.71ha | (令和5年度) 8.50ha |
| 7 | 飼料作物 (飼料用米、 WCS用稲を除く) | 資源循環 (耕畜連携) | 作付面積 取組面積 | (令和2年度) 1,205.97ha 13.11ha | (令和5年度) 1,235.97ha 15.5ha |
| 8 | 加工用米 | 加工用米作付助成 | 作付面積 取組面積 | (令和2年度) 12.47ha 9.27ha | (令和5年度) 14.8ha 11.60ha |
| 9 | 加工用米 飼料用米 | 利用権設定加算 (加工用米・飼料用米) | 作付面積 利用権設定加算 | (令和2年度) 12.47ha 9.27ha | (令和5年度) 19.30ha 14.90ha |

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。